10分の1「大和」徹底解剖 ⑧レーダー

「大和」のレーダーは当時の日本海軍では最新　３種類のレーダーを設置

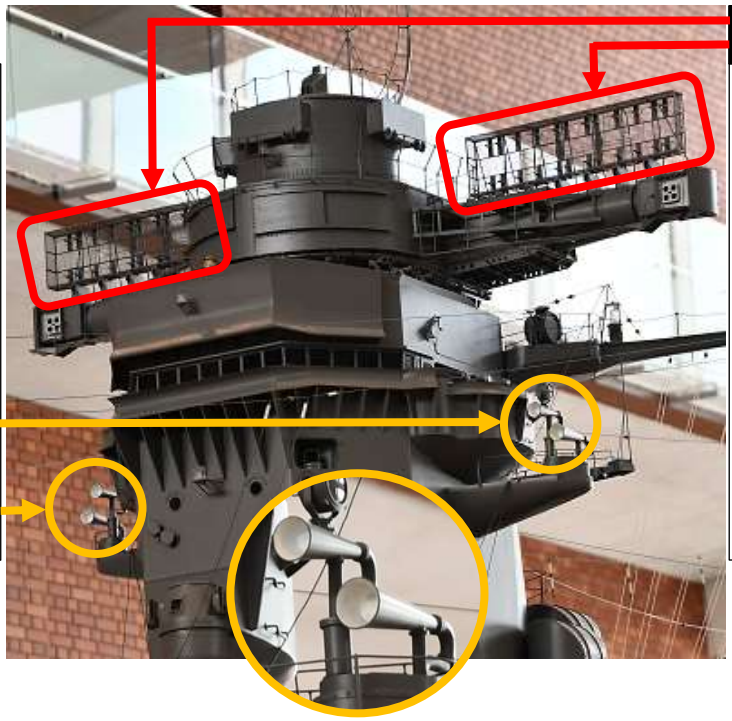
レーダー

電波を発射して、反射してくる電波を測定することで、対象物までの距離や方向を測る装置です。
当時の日本海軍では、レーダーのことを「電波探信儀（略称：電探）」と呼んでいました。

22号電探

仮称二号電波探信儀二型

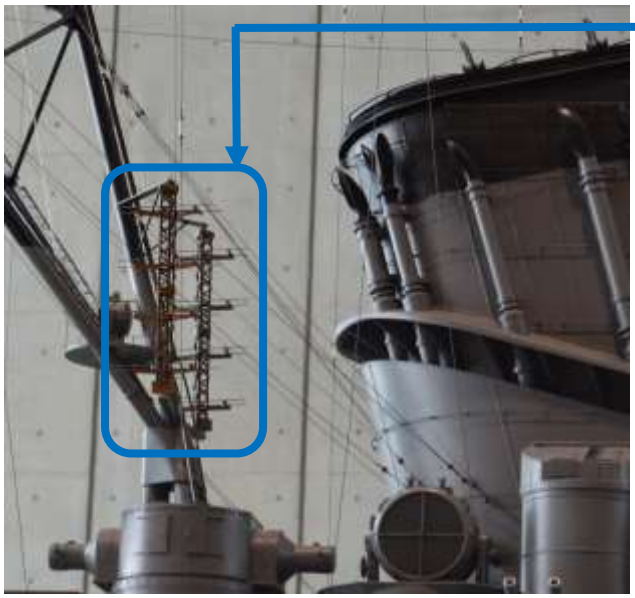
艦船に載せるために日本海軍が開発した敵艦発見のための電探です。昭和19年から実用化されました。
ラッパのような形をしたものが２個で１組です。上が電波を受けるためのもので、下が電波を出すためのものです。



21号電探

二式二号電波探信儀一型

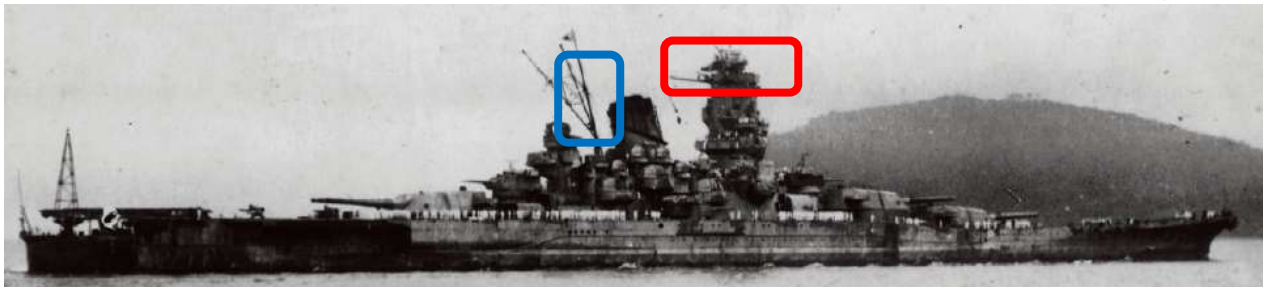
「大和」に最初に設置されたレーダーです。「対空見張りレーダー」で、飛行機を見つけるためのものです。
陸上用の一号一型レーダーを艦船に載せるようにしたものです。15 メートル測距儀の両腕に取り付けられました。



13号電探

三式一号電波探信儀三型

当初は、陸上に設置するための「対空見張りレーダー」として日本海軍が開発しました。昭和19年、「大和」に設置されました。
はしごタイプのアンテナを２張り，メインマストの両脇に取り付けられました。

レーダーが設置されてなかった「大和」

昭和17（1942）年９月、トラック島における「大和」の写真です。
よく見ると、レーダーは設置されていません。